

## 議事概要：令和８年度第１回被害者保護増進等事業の効果検証に関する

### ワーキンググループ議事概要

I. 日時：令和８年６月３０日（火） １３：００ ～ １５：００

II. 場所：オンライン開催

III. 出席者(敬称略)

委員（有識者）

古笛 恵子 弁護士

福田 弥夫 八戸学院地域連携研究センター長（座長）

麦倉 泰子 関東学院大学社会学部教授委員

委員（関係団体）

小沢 樹里 一般社団法人関東交通犯罪遺族の会 代表理事

加藤 憲治 一般社団法人日本自動車会議所 保険特別委員長

金子 晃浩 全日本自動車産業労働組合総連合会 会長

桑山 雄次 全国遷延性意識障害者・家族の会 代表

古謝 由美 NPO 法人日本高次脳機能障害友の会 監事

坂口 正芳 一般社団法人日本自動車連盟 会長

（代理出席：高水 紀美彦 一般社団法人日本自動車連盟 交通環境部長）

徳政 宏一 NPO 法人日本頸髄損傷 LifeNet 理事長

国土交通省

大窪 雅彦 大臣官房審議官（物流・自動車）

忍海邊 智子 物流・自動車局 保障制度参事官 他

IV. 配布資料：

議事次第

委員等名簿

資料１ 被害者等支援・事故防止の効果検証について

資料２ 事業用自動車総合安全プラン 2030 等について

V. 議事内容：

事務局からの資料説明後、主として以下のような意見のやり取りが行われた。

【被 5 短期入院協力事業、被 6 短期入所協力事業】

- ・ 予算執行率が大幅に改善し、非常に喜ばしい。本事業はレスパイト等の観点からも重要なため、今後も積極的に周知をお願いしたい。

【被 7 自動車事故被害者受入環境整備事業】

- ・ 介護者なき後の問題として、グループホームや訪問介護事業者は厳しい経営状況にあるため、引き続き継続的な支援を検討いただきたい。

【被 8 社会復帰促進事業】

- ・ 本事業に就いて、実績報告会等を通じて事業所間の横のつながりが強化されているほか、支援件数も着実に増加しており、非常に良い取り組みだと認識している。一方、アウトカム指標は従前より 6 件以上であり、これまでの実績等を踏まえ指標を見直す等、更なる事業の充実に向け検討いただきたい。
- ・ 本事業は非常に有意義であると考えており、引き続き事業の充実や家族に対する支援等を検討いただきたい。

【被 13 療護センターの老朽化対策及び機能強化】

- ・ 現在、物価高騰等の様々な社会問題が生じており、千葉療護センターの建替えや岡山療護センターのリハビリ棟の工事に要する経費が増加する可能性等を十分に検討した上で進める必要があるのではないか。
- ・ 千葉療護センターの建替えについて、老朽化対策だけではなく介護者なき後の対応を踏まえた終生療護等の環境整備についても検討いただきたい。

【被 14 在宅療養環境整備事業】

- ・ 周知徹底等により予算執行率が改善されていることは評価する一方で、訪問系介護サービスへのニーズの高さが明確となっており、予算額が頭打ちとなり支援の打ち切りが生じることをないよう、予算の拡充等を検討いただきたい。

【被 15 相談支援・遺族支援】

- ・ 先日ナスバより当該事業に関する説明会を実施いただいたが、制度の更なる理解を促進するために改めて説明会を実施していただきたい。また、各団体より意見交換を行いたいという意見もあるため、意見交換会も実施いただきたい。
- ・ 事業の実施に必要なパソコンや携帯電話の支給を支援内容に含めることを検討いただ

きたい。

【事 10 運転に不安を抱える高齢者の免許返納の促進に向けた対策】

- ・ 高齢者の免許返納について様々な取り組みがなされている一方で、その家族に対する支援が不足している。高齢者自身だけではなく、高齢者を抱える家族に寄り添った取り組みもお願いしたい。
- ・ 昨年のアウトカム指標に関する指摘を踏まえた見直しにより、事業効果の一端を示すものと認識しているものの、本来の目的である、本事業を契機に免許返納をしたのかという点が依然として不明確ではないか。引き続き、本事業の効果を適切に検証できるような指標を検討いただきたい。

【事業全般について】

- ・ 介護者なき後への対応に向けた事業の充実を検討いただきたい。
- ・ 各事業はいずれも社会的影響が大きいことから、引き続き積極的な事業の推進に取り組んでいただきたい。
- ・ ナスバや自賠責制度に関する広報を実施いただいているところであるが、各事業についても、社会に広く認知されるよう積極的な情報発信に努めていただきたい。積極的な情報発信により、各事業に対する国民の理解促進が図られ、さらには交通事故被害者支援の更なる充実や発展にも寄与するのではないか。

【自動運転について】

- ・ 高齢化に向けて自動運転は非常に意義のある取り組みであると認識している。

以上